

**未来社会創造事業 探索加速型探索研究**  
**事後評価結果**

1. 領域

「世界一の安全・安心社会の実現」領域

2. 重点公募テーマ

心理状態の客観的把握とフィードバック手法の確立による生きがい・働きがいのある社会の実現

3. 研究開発課題名

個々人の学習効果を随時予測・改善する教育・学習基盤の実現

4. 研究開発代表者名(機関名・役職は評価時点)

山崎 俊彦(東京大学大学院情報理工学系研究科 教授)

5. 評価結果

評点: A (優れている)

総評:

本研究開発課題は、学習の楽しさや学びによる成長の実感を得るとともに、個々人が自らの望む能力や社会から求められる能力を身につけ、「生きがい・働きがい」を感じられる未来社会を目指すものである。

探索研究期間では、汎用のカメラや照明でも計測可能なキャリブレーション技術を開発し非接触にて心拍変動、呼吸数、表情や瞳孔径などの生体情報を高精度で計測し、その生体情報から心理状態を高精度で予測する機械学習モデルを構築したことを評価する。

また、フィードバックについては、問題を解いているときの生体情報から問題の難易度と学習の集中度に強い関係性があることを明らかにするなど教育現場から多くの知見を得られ、優れた成果が認められた。

今後は、成長期の学生だけでなくスキリングなどより広い適用に向けて研究開発が発展することを期待する。

以上